

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業 ぼんど		
○保護者評価実施期間	7年 1月 6日		7年 3月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	(回答者数)	
○従業者評価実施期間	7年 1月 6日		7年 3月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	25 (回答者数)	23
○事業者向け自己評価表作成日	7年 3月 12日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもが安心して通所している。	・子どもの笑顔を大切にしている。 ・興味関心を持った遊びや活動の提供を行っている。 ・職員も一緒になって楽しく活動に参加している。	・今後も児童の興味のある遊びや活動を提供し、更に楽しく、安心して通えるように環境を整えていく。 ・職員が一緒になって遊ぶことで、他児とのコミュニケーションの架け橋となり、周囲とのかかわりを楽しめるよう支援していく。
2	・構造化や視覚支援、特性に応じた対応を行っている。	・スケジュールカードや絵カードの提示、仕切り等を使用し構造化を図り、児童に合わせて環境を整えている。 ・職員間で共通理解を図り、児童に合わせた対応を心掛けている。	・継続して構造化や視覚支援を行っていき、利用児にとってより良い環境を提供していく。
3	・日頃から子どもの発達状況や様子等、保護者と共通理解が図れている。	・連絡帳を主に、一日の活動の様子や課題等、共通理解を持てるよう意識している。	・より密に連携を図るため、電話や面談を定期的に行い共通理解を深めていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・幼稚園や保育園、その他地域の子どもたちとの交流の少なさ。	・幼稚園・保育園に通っている児童が多かったため、必要性を感じていなかった。	・幼稚園に通っていない児童の利用が増えてきたため、今後は各種保育園や幼稚園に声をかけ、交流の機械を設けていく。
2	・家族支援プログラムとして、研修などの情報提供の少なさ。	・研修の提供の数が少なかった。	・今後は保護者の方の目に留まりやすいようにわかりやすく提示していく。また、研修の数を増やして提示していく。
3	・定期的な面談の少なさ。	・送迎が多い事業所のため、保護者とのやり取りが連絡帳がメインになっていたため。	・半年に一回のモニタリングに加え、定期的に電話等で悩み事や困っていることについての連絡を行う。